

「講じるべき策」を考える前提として、「どんな人向けに？」という対象者について整理しておく必要があるのでは？

まずは、情報の受け手側と、実施・主催側、行政に分けられるのではないか？

実施・主催者、行政向けに講じる策も考える必要はあるが、まずは情報の受け手向けに講じる策を検討する

対象者整理の軸	選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3	選択肢 4	選択肢 5	選択肢 6	考察結果
アナログ or デジタル	アナログ	デジタル					常に2パターンの施策を意識する
年齢	中学生以下	高校生	大学生	20代・30代	40代・50代	60代以上	
性別	男性	女性	区別なし				分ける必要なし？
仕事	自営業	勤め人	主婦				分ける必要なし？
コミュニティとの関わり	無し	近所付き合い	子どもつながり	地域参加			地域参加 には不要、アナログの人で考慮？
情報接点・関与度	広報・HP見ない	自分に関わることは見る	丹念に情報を見る	自ら収集する			自ら収集する には不要
興味・行動	興味・行動無し	興味あるが行動していない	行動したが続かない	継続している			興味・行動無し、行動したが続かない は対象外、 継続している には不要

↓

せっかく勇気を出して？参加したのに継続しなければ、むしろ逆効果なので、
継続策もある程度合わせて考えるべきか？

しかし、ここに問題があるのかどうか分からないので、まずは実態調査からか？

<既存取組みの状況> の評価

1 市ホームページへの掲載（ただしPDF形式）

→知られているか？見つけやすいか？見やすいか？使いやすいか？

2 市内公共施設への配布（閲覧用1部、配布用2部）

→公共施設での閲覧はまずやらないだろう。配布はされてる？活用されてないのでは？

3 市役所庁内への共有（庁内メールにて）

行政内で共有されているが、形式的で広がり、活用がないのでは？

→実施・主催側をつなぐこと、各担当の対象者への紹介に活かされることを考えるべき

※受け手側以外に、実施・主催側と行政にも生涯学習ガイドをより知らしめて活用してもらおう策を検討する必要があるのでは？